◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 瀬戸染付工芸館 【愛知・瀬戸】（https://www.seto-cul.jp/sometsuke/kikaku.html）

8 月 2 日（土）～11 月 24 日（月・振休）

企画展 瀬戸染付　草花の饗宴

瀬戸染付における草花表現のルーツは中国明清代（景徳鎮）の影響で 17 世紀初頭にはじまりました。当初は菊・蓮・牡丹・竹などがよく描かれ、瀬戸でも多く模倣・変容され、江戸時代には日本独特の四季や自然観が反映され、桜・梅・菊・朝顔・撫子・桔梗・芒（すすき）・紅葉等が好まれました。そして陶工たちは屏風画や着物の文様からもインスピレーションを得ており、それは絵画的な構成やリズム感につながったと思われます。こうした流れを見ると瀬戸染付は中国と日本の自然観の融合であると言えるでしょう。古典的な作品からこれからの瀬戸染付を発展させるためのモチーフとは何か？創造のきっかけとなることを願い、ご紹介いたします

2. 兵庫陶芸美術館 【兵庫・丹波】（https://www.mcart.jp/exhibition/e3702/）

9 月 6 日（土）～11 月 24 日（月・振休）

特別展 MINGEI ALIVE － いま、生きている民藝

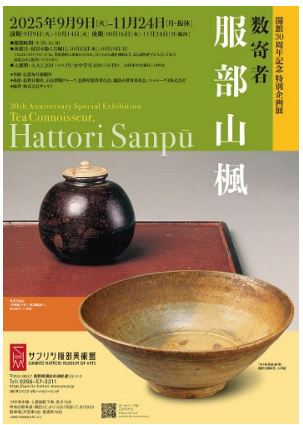
およそ 100 年前に柳宗悦によって提唱された「民藝」。それは日々の暮らしに寄り添うものに美を見いだすという新しい価値観であり、提案でした。本展では、富本憲吉（1886～1963）、バーナード・リーチ（1887-1979）をはじめとする当館の現代陶芸コレクションの核となっている個人作家の器作品を展観しながら、当時、先鋭的なモダニストでもあった柳が見つめた民藝の本質について、現代の視点から再考することを試みます。さらに、「いま、生きている民藝」の諸相について、現代の作家たちがつくりだす様々な作品を通して、いま、私たちが豊かで幸せであると思える暮らしと、そこに息づく「生活の芸術（アート）」について、思いを寄せる機会とします。

3. サンリツ服部美術館 【長野・諏訪】（https://sunritz-hattori-museum.or.jp/pages/265/）

9 月 9 日（火）～11 月 24 日（月・振休）　前期:9 月 9 日（火）～10 月 14 日（火）

後期:10 月 16 日（木）～11 月 24 日（月・振休）

開館 30 周年記念特別企画展　数寄者　服部山楓（はっとりさんぷう）



サンリツ服部美術館は、2025 年 6 月に開館 30 周年を迎えました。これを記念し、当館の茶道具コレクションの礎を築いた数寄者・服部山楓（1900～74）に焦点を当てた展覧会を開催いたします。山楓は本名を正次（しょうじ）といい、時計王・服部金太郎（1860～1934）の次男として生まれ、戦後間もなく服部時計店 3 代目社長に就任します。高精度の時計の開発に尽力し、昭和 39 年（1964）開催の東京オリンピック公式時計に採用され、世界初のクォーツ腕時計の商品化に成功するなど、セイコーを国際的なブランドへと発展させました。 一方、山楓は茶の湯に親しんだ人物としても知られ、自らの美意識にかなった茶道具や美術品を蒐集し、数多くの茶会を開きます。趣向を凝らすだけでなく、わびも感じさせる山楓の茶は評判となり、東京を代表する数寄者としてその名が広まっていきました。本展では、山楓ゆかりの作品を前後期合わせて約 60 点展示いたします。茶会で披露された茶道具などを通じて、数寄者・服部山楓の姿に触れる機会となりましたら幸いです。